

平成 17 年度 江戸川区「行政評価」事務事業分析シート

整理番号	38	作成日	平成 17 年 6 月 20 日
事業名	障害児介助員の配置		
所属名	江戸川区教育委員会事務局 学務課 相談係	電話番号	(03) 5662-1627 (直通)

事業の目的・課題	事業の目的及び概要
	江戸川区立小・中学校で、肢体不自由や集団生活になじめない等のため学校生活を円滑に送れない児童・生徒に対し、介助員を配置し、生活介助や見守り等を行うことで、円滑かつ安全に学校生活を送れるようにします。
	事業の開始年度 昭和60年頃 現在の課題
	①集団生活になじめない等いわゆる発達障害(情緒障害)の児童・生徒数が年々増加傾向にあります。 ②障害の程度から養護学校での就学が適切な児童・生徒が、通常の学級や心障学級に在籍しています。同様に、心障学級での就学が適切な児童・生徒が、通常の学級に在籍し、介助員が必要になっています。 ③介助員がなかなか見つかりません。

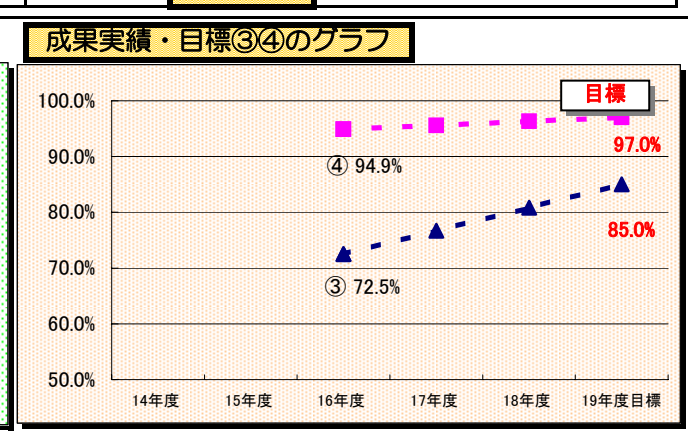
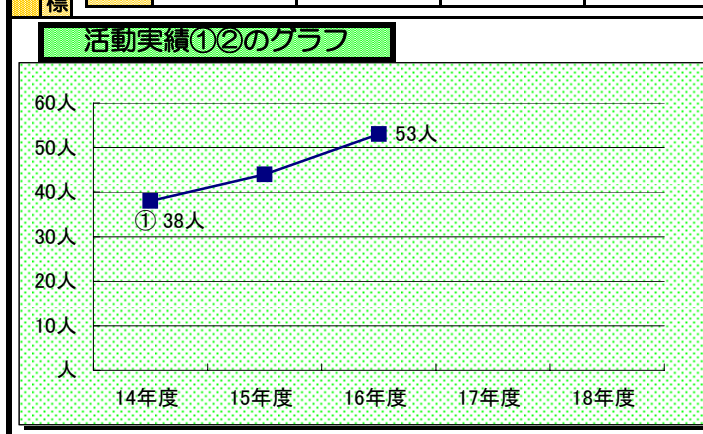
対象	事業の対象者と動向	<input type="checkbox"/> 区民全体 <input checked="" type="checkbox"/> 対象年齢あり (小1~中3)										
	[対象児童・生徒数・各年5月1日現在]	<input type="checkbox"/> 対象条件 ()										
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>14年度</th> <th>15年度</th> <th>16年度</th> <th>17年度</th> <th>18年度</th> <th>対象の傾向</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3,031人</td> <td>3,085人</td> <td>3,150人</td> <td>3,213人</td> <td>3,291人</td> <td>↗ 増加傾向</td> </tr> </tbody> </table>	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	対象の傾向	3,031人	3,085人	3,150人	3,213人	3,291人
14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	対象の傾向							
3,031人	3,085人	3,150人	3,213人	3,291人	↗ 増加傾向							
備考:	全児童・生徒数×6.3%(2002年文科省調査)で対象児童・生徒数を推計 (多動・学習障害等の発達障害の出現率)											

活動状況	活動指標名	活動指標の説明
	① 障害児介助員数	通常の学級に在籍している児童・生徒に配置した介助員数
	②	

活動実績		14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	16年度、小学校40人,中学校13人の介助員を配置しています。 介助が必要な児童生徒数は64人です。
	①	38人	44人	53人	人	人	
	②						

成果指標	成果・目標指標名	成果・目標指標の説明
	③ 保護者から見た児童生徒が伸びた点	保護者へのアンケート調査で、落ち着き・授業への集中度の割合を85%とします。
	④ 学校からみた介助員配置の効果	学校長へのアンケート調査で、100%効果があるように努めます。

成果実績・目標		14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度目標	目標値設定の説明
	③	人	人	72.5%	0.0%		85.0%	介助員の効果的配置に努めることとし、16年度の状況から目標を設定しました。
	④	千円	千円	94.9%	0.0%		97.0%	



事業名 障害児介助員の配置

実施の根拠となる法令等 なし

民間委託やボランティアなどとの協働の状況

なし あり

委託等の内容 ()

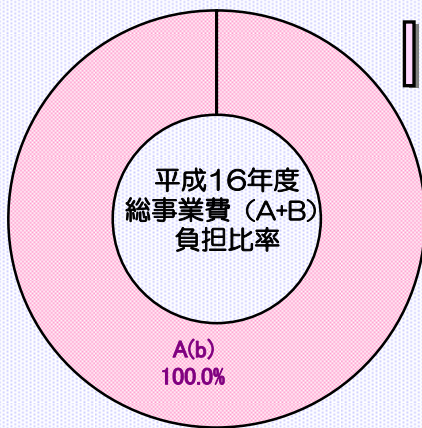
対象事業に関連する他の事業

	事業名	事業概要
①		
②		
③		

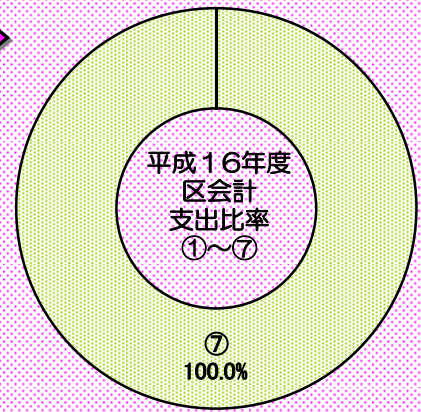
その他背景・他の自治体の状況等

23区各区でそれぞれ実施しています。

16年度総事業費 (A+B) 84,227千円



A(a~c)
区会計内訳



A 区の会計内訳 (a~c) 84,227千円

A(a) 国都支出金 (歳入)	0千円
A(b) 区負担分	84,227千円
A(c) 受益者負担 (歳入)	0千円

支出内訳 (①~⑦)

①	
②	
③	
④	
⑤	
⑥	
⑦ 人件費	84,227千円

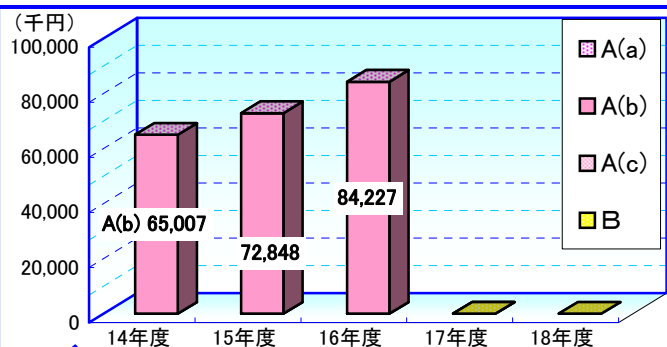
介助員は臨時職員で行っています。また、介助の可否を判定する相談員は非常勤職員です。

ア 常勤職員	0.7人
イ 非常勤職員	1.3人
ウ 臨時職員	53.0人

B 利用者が事業者等へ直接支払う額

0千円

総事業費の経年変化 (14年度~)



経費は全額 区が負担しています。

16年度の

介助を必要とする生徒・児童一人あたりの経費

1,316,047円

経費の説明

経費はすべて人件費です。

平成17年度 江戸川区「行政評価」内部評価シート

整理番号	38	事業名	障害児介助員の配置
-------------	----	------------	-----------

所属名	江戸川区教育委員会事務局 学務課 相談係
------------	----------------------

所 管 課 長 評 価

そう思う ←→ そう思わない

評価項目	評点	5	4	3	2	1	備 考
【必要性・代替性】							
1	区が実施すべき事業である。		○				
2	目的を達成するために他の手段がある。				○		
【実績】							
3	目的を果たすために有効な事業である。		○				
4	事業の成果を上げている。	○					
【公平性】							
5	対象者や実施回数、助成額等は適切である。		○				
6	受益者負担を検討する必要がある。		○				経費の面よりも保護者の授業運営への協力など
【協働の可能性】 ※既に実施している場合は、拡大・維持・縮小の可能性として評価							
7	ボランティアやNPOの活用が可能である。			○			
8	民間委託の可能性はある。					○	
【効率性】							
9	工夫や改善が必要である。		○				
10	経費を削減できる可能性がある。		○				

所 管 部 長 の 意 見

本業務は、単なる労務提供ではなく、まずもって児童に対する理解と愛情、そしていくばくかの専門性が求められる業務である。どのような人材を確保できるかが今後のポイントである。

平成17年度 江戸川区「行政評価」外部評価シート

整理番号	38	事業名	障害児介助員の配置
-------------	----	------------	-----------

所属名	江戸川区教育委員会事務局 学務課 相談係
------------	----------------------

外部評価委員会評価

そう思う ← → そう思わない

評価項目	評点	5	4	3	2	1	備考
【必要性・代替性】							
1	区が実施すべき事業である。	○					
2	目的を達成するために他の手段がある。				○		
【実績】							
3	目的を果たすために有効な事業である。	○					
4	事業の成果を上げている。	○					
【公平性】							
5	対象者や実施回数、助成額等は適切である。		○				
6	受益者負担を検討する必要がある。				○		
【協働の可能性】 ※既に実施している場合は、拡大・維持・縮小の可能性として評価							
7	ボランティアやNPOの活用が可能である。			○			
8	民間委託の可能性はある。			○			
【効率性】							
9	工夫や改善が必要である。			○			
10	経費を削減できる可能性がある。			○			

外部評価委員会の意見

- ・文科省調査の出現率による対象児童・生徒数の推計値と実際の受入児童・生徒数、介助員配置数に開きがありすぎる。実際に介助員が必要な児童・生徒数を把握すべきである。
- ・受益者負担を求めようような性格の事業ではないと思うが、区の経費負担額は大きく、必要性とのバランスが難しい。
- ・学校は相当な努力をしており、これ以上の努力を求めることは、教師の負担の増につながるのではないかと。教育委員会全体の問題として対処してほしい。